

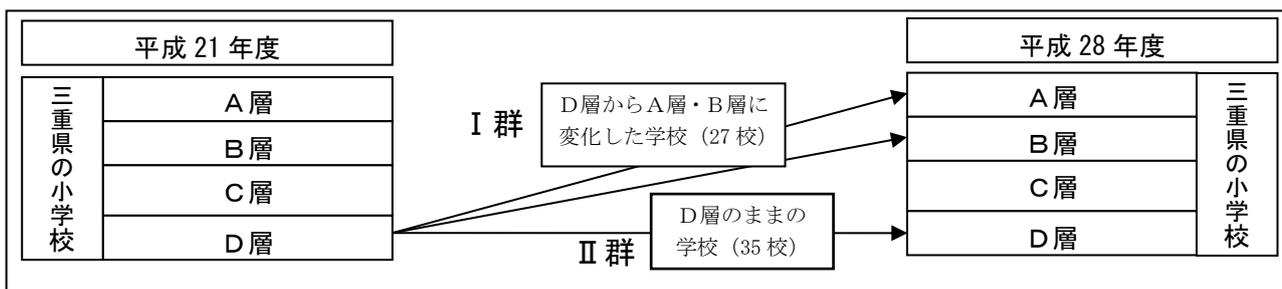
第3章 学校質問紙調査の分析

1 学力向上のための効果的な取組

小学校

昨年度の分析に引き続き、地域の人材を外部講師として招へいした授業、算数で実生活における事象と関連を図った授業等の取組は、効果が大きいと考えられます。

平成21年度から平成28年度までの経年で、学力が著しく向上した学校と向上が難しかった学校との学校質問紙の肯定的な回答を比較し、効果的な取組について分析を行いました。



分析は、I群の学校質問紙の回答状況で肯定的な回答率が5%以上向上した質問項目を抽出し、それらの質問項目について、I群とII群の肯定的な回答率の差から比較します。

下の表は、太枠で囲った列の値が大きい順に並べています。

番号	質問項目 (I群の経年差が5%以上改善した項目を抽出)	I群			II群			I群-II群
		H21	H28	差	H21	H28	差	H28
(67)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	70.4%	88.9%	18.5%	48.6%	65.7%	17.1%	23.2%
(84)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	66.7%	96.3%	29.6%	65.7%	74.3%	8.6%	22.0%
(75)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	59.3%	81.5%	22.2%	54.3%	60.0%	5.7%	21.5%
(68)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	33.3%	55.6%	22.2%	25.7%	34.3%	8.6%	21.3%
(71)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	92.6%	100%	7.4%	77.1%	80.0%	2.9%	20.0%
(26)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	14.3%	14.3%	19.0%
(47)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	92.6%	100%	7.4%	91.4%	82.9%	-8.6%	17.1%
(74)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	37.0%	63.0%	25.9%	34.3%	48.6%	14.3%	14.4%
(49)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	88.9%	96.3%	7.4%	97.1%	82.9%	-14.3%	13.4%
(69)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	85.2%	92.6%	7.4%	77.1%	80.0%	2.9%	12.6%
(48)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	66.7%	85.2%	18.5%	68.6%	74.3%	5.7%	10.9%
(39)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	85.2%	96.3%	11.1%	97.1%	85.7%	-11.4%	10.6%

第3章 学校質問紙調査の分析

番号	質問項目 (I群の経年差が5%以上改善した項目を抽出)	I群			II群			I群-II群
		H21	H28	差	H21	H28	差	H28
(86)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	33.3%	40.7%	7.4%	14.3%	31.4%	17.1%	9.3%
(77)	調査対象学年の児童に対する算数の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたか	0.0%	11.1%	11.1%	5.7%	2.9%	-2.9%	8.3%
(70)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	81.5%	96.3%	14.8%	88.6%	88.6%	0.0%	7.7%
(90)	学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の方が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか	70.4%	81.5%	11.1%	71.4%	74.3%	2.9%	7.2%
(25)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか	14.8%	22.2%	7.4%	20.0%	28.6%	8.6%	6.4%
(94)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	92.6%	100%	7.4%	100%	97.1%	-2.9%	2.9%
(93)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導しましたか	92.6%	100%	7.4%	91.4%	97.1%	5.7%	2.9%
(95)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導しましたか	92.6%	100%	7.4%	91.4%	97.1%	5.7%	2.9%
(61)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	44.4%	96.3%	51.9%	42.9%	94.3%	51.4%	2.0%
(85)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	18.5%	33.3%	14.8%	20.0%	31.4%	11.4%	1.9%
(116)	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	55.6%	100%	44.4%	62.9%	100%	37.1%	0.0%
(60)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	77.8%	100%	22.2%	74.3%	100%	25.7%	0.0%
(59)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか(指導計画等への反映)	85.2%	100%	14.8%	85.7%	100%	14.3%	0.0%

分析結果

○著しく向上した学校の取組のうち、効果が大きかったと考えられる取組で、平成27年度と同分析と重なりがあった取組

- ・地域の人材を外部講師として招へいた授業の実施
- ・算数で実生活における事象と関連を図った授業の実施
- ・発展的な学習の指導(国語、算数)
- ・自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導
- ・国語で目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業の実施
- ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導
- ・博物館や科学館、図書館を利用した授業の実施

○上記以外で、本年度のI群の学校の特徴的な取組

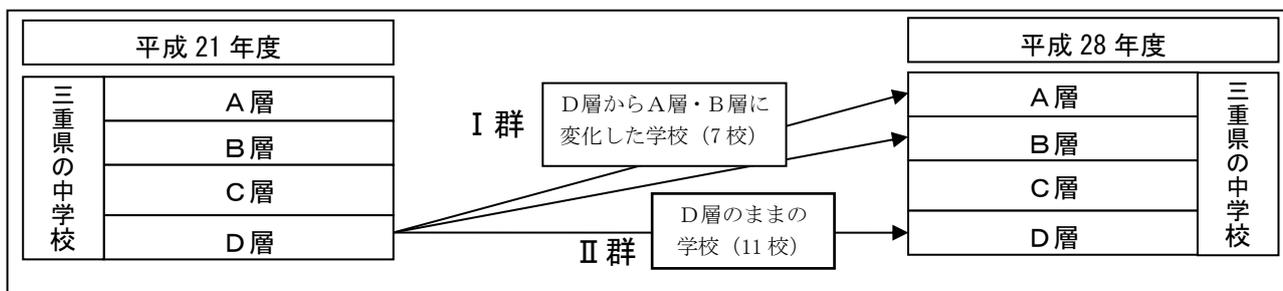
- ・国語で補足的な学習の指導や様々な文章を読む習慣を付ける授業の実施
- ・土曜日を利用した補足的な学習サポートの実施
- ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた授業の実施
- ・様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導

これらの取組は、授業における児童の主体的な学習の実現に向けて取り組む優先事項の設定の参考になります。自校の状況や児童の状況に応じて取組の内容を選択し、年間を通じて組織的・継続的な取組をすることが大切です。

中学校

昨年度に引き続き、数学で習熟の遅いグループや習熟の早いグループへの少人数による指導、土曜日を利用した補足的な学習サポートの実施等の取組は効果が大きいと考えられます。

平成21年度から平成28年度までの経年で、学力が著しく向上した学校と向上が難しかった学校との学校質問紙の肯定的な回答を比較し、効果的な取組について分析を行いました。



分析は、I群の学校質問紙の回答状況で肯定的な回答率が5%以上向上した質問項目を抽出し、それらの質問項目について、I群とII群の肯定的な回答率の差から比較します。

下の表は、太枠で囲った列の値が大きい順に並べています。

番号	質問項目 (I群の経年差が5%以上改善した項目を抽出)	I群			II群			I群-II群
		H21	H28	差	H21	H28	差	H28
(27)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)	85.7%	100%	14.3%	72.7%	63.6%	-9.1%	36.4%
(64)	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	14.3%	42.9%	28.6%	36.4%	9.1%	-27.3%	33.8%
(26)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、土曜日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか	0.0%	57.1%	57.1%	18.2%	27.3%	9.1%	29.9%
(65)	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	14.3%	28.6%	14.3%	45.5%	0.0%	-45.5%	28.6%
(45)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか	85.7%	100%	14.3%	54.5%	72.7%	18.2%	27.3%
(67)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補足的な学習の指導を行いましたか	71.4%	100%	28.6%	45.5%	72.7%	27.3%	27.3%
(73)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、補足的な学習の指導を行いましたか	85.7%	100%	14.3%	72.7%	81.8%	9.1%	18.2%
(103)	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	71.4%	100%	28.6%	81.8%	81.8%	0.0%	18.2%
(108)	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	71.4%	100%	28.6%	72.7%	81.8%	9.1%	18.2%
(85)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	0.0%	42.9%	42.9%	0.0%	27.3%	27.3%	15.6%
(83)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	28.6%	85.7%	57.1%	45.5%	72.7%	27.3%	13.0%
(25)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか	14.3%	28.6%	14.3%	27.3%	18.2%	-9.1%	10.4%
(84)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	18.2%	18.2%	10.4%
(59)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか	71.4%	100%	28.6%	100%	90.9%	-9.1%	9.1%

第3章 学校質問紙調査の分析

番号	質問項目 (I群の経年差が5%以上改善した項目を抽出)	I群			II群			I群-II群
		H21	H28	差	H21	H28	差	H28
(60)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	71.4%	100%	28.6%	100%	90.9%	-9.1%	9.1%
(69)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	71.4%	100%	28.6%	63.6%	90.9%	27.3%	9.1%
(114)	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	42.9%	100%	57.1%	72.7%	90.9%	18.2%	9.1%
(47)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	71.4%	85.7%	14.3%	45.5%	81.8%	36.4%	3.9%
(51)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか	85.7%	100%	14.3%	81.8%	100%	18.2%	0.0%
(61)	平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	28.6%	100%	71.4%	100%	100%	0.0%	0.0%
(71)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	71.4%	100%	28.6%	81.8%	100%	18.2%	0.0%
(92)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	71.4%	100%	28.6%	90.9%	100%	9.1%	0.0%
(46)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか	42.9%	71.4%	28.6%	45.5%	72.7%	27.3%	-1.3%
(74)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	28.6%	42.9%	14.3%	36.4%	63.6%	27.3%	-20.8%
(68)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	28.6%	42.9%	14.3%	27.3%	72.7%	45.5%	-29.9%
(75)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	28.6%	57.1%	28.6%	45.5%	90.9%	45.5%	-33.8%

分析結果

○著しく向上した学校の取組のうち、効果が大きかったと考えられる取組で、平成27年度の同分析と重なりがあった取組

- ・数学で習熟の遅いグループや習熟の早いグループへの少人数による指導の実施
- ・土曜日を利用した補足的な学習サポートの実施
- ・本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付く指導
- ・校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映
- ・他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加
- ・数学で補足的な学習の指導
- ・博物館や科学館、図書館を利用した授業の実施
- ・ボランティア等による授業サポートの実施

○上記以外で、本年度のI群の学校の特徴的な取組

- ・長期休業日や放課後を利用した補足的な学習サポートの実施
- ・国語で補足的な学習の指導の実施
- ・地域の人材を外部講師として招へいした授業の実施
- ・国語で、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業の実施

これらの取組は、授業における生徒の主体的な学習の実現に向けて取り組む優先事項の設定の参考になります。自校の状況や生徒の状況に応じて取組の内容を選択し、年間を通じて組織的・継続的な取組をすることが大切です。

地域の教育力を活用した取組や言語活動を適切に取り入れた授業づくりが大切です。

小中学校ともに、日本語指導が必要な児童の在籍数と平均正答率の合計との間には、明確な関連は見られません。

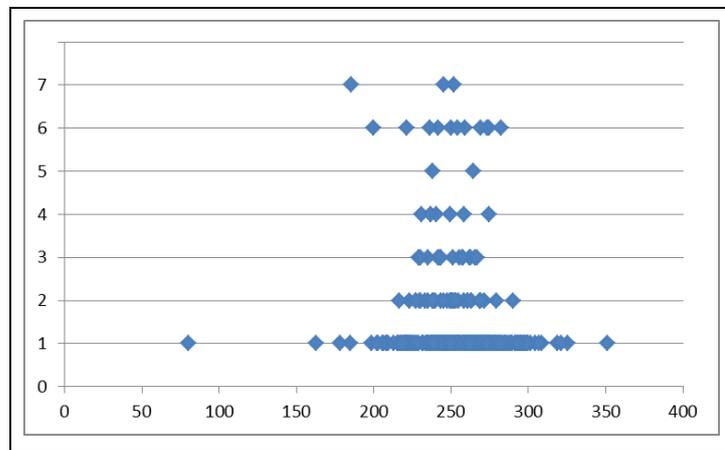
しかしながら、そうした中で、日本語指導が必要な児童生徒の在籍数が同じような状況の学校の中にも平均正答率が高い学校とそうでない学校があります。それらの学校の指導の違いを学校質問紙から検証します。

小学校

日本語指導が必要な児童の在籍状況を学校が選んだ選択肢（縦軸）ごとに、その学校の教科に関する調査の平均正答率の合計がどこに位置しているかをプロットしました。

<選択肢>

- 1 在籍していない
- 2 1人
- 3 2人
- 4 3人
- 5 4人
- 6 5～7人
- 7 8人以上
- 0 無回答・不明



複数名の日本語指導が必要な児童がいる学校（選択肢3～7を選択）は37校あり、そのうち、国語A・国語B・算数A・算数Bの合計が全国平均を超えている学校が15校ありました。これらをI群とし、37校の中で平均正答率の合計が低い15校をII群とし、回答状況の差がある項目を抽出しました。

(数字は選択肢)

番号	質問項目	回答状況
(14)	調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない	
(26)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、土曜日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか 1 毎週 2 月に数回程度 3 学期に数回程度 4 年に数回 5 行っていない	

第3章 学校質問紙の分析

(29)	<p>指導計画について、言語活動に重点を置いて作成していますか 1 よくしている 2 どちらかといえばしている 3 あまりしていない 4 全くしていない</p>																																	
(35)	<p>調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>																																	
(62)	<p>平成27年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか 1 よく行った 2 行った 3 ほとんど行っていない</p>																																	
(63)	<p>全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画への反映を行っていますか 1 よく行っている 2. どちらかといえば行っている 3 ほとんど行っていない 4 地方公共団体における独自の学力調査を実施していない</p>																																	
(73)	<p>調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>																																	
(91)	<p>保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない</p>																																	
(98)	<p>調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>																																	
(108)	<p>コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を学ぶ校内研修を行っていますか 1 よくしている 2 どちらかといえばしている 3 あまりしていない 4 全くしていない</p>																																	
<p>4教科区分の平均正答率の合計 (I群、II群それぞれ15校の平均正答率の合計)</p>		<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="3">I群</td> <td>282.3</td> <td>274.7</td> <td>274.6</td> <td>273.3</td> <td>269.4</td> </tr> <tr> <td>267.0</td> <td>265.5</td> <td>264.6</td> <td>262.8</td> <td>262.6</td> </tr> <tr> <td>262.2</td> <td>259.2</td> <td>258.2</td> <td>258.1</td> <td>257.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">II群</td> <td>243.7</td> <td>243.2</td> <td>242.0</td> <td>241.5</td> <td>240.8</td> </tr> <tr> <td>238.4</td> <td>236.8</td> <td>236.6</td> <td>235.0</td> <td>231.1</td> </tr> <tr> <td>230.5</td> <td>229.0</td> <td>221.7</td> <td>199.9</td> <td>185.4</td> </tr> </tbody> </table>	I群	282.3	274.7	274.6	273.3	269.4	267.0	265.5	264.6	262.8	262.6	262.2	259.2	258.2	258.1	257.4	II群	243.7	243.2	242.0	241.5	240.8	238.4	236.8	236.6	235.0	231.1	230.5	229.0	221.7	199.9	185.4
I群	282.3	274.7		274.6	273.3	269.4																												
	267.0	265.5		264.6	262.8	262.6																												
	262.2	259.2	258.2	258.1	257.4																													
II群	243.7	243.2	242.0	241.5	240.8																													
	238.4	236.8	236.6	235.0	231.1																													
	230.5	229.0	221.7	199.9	185.4																													

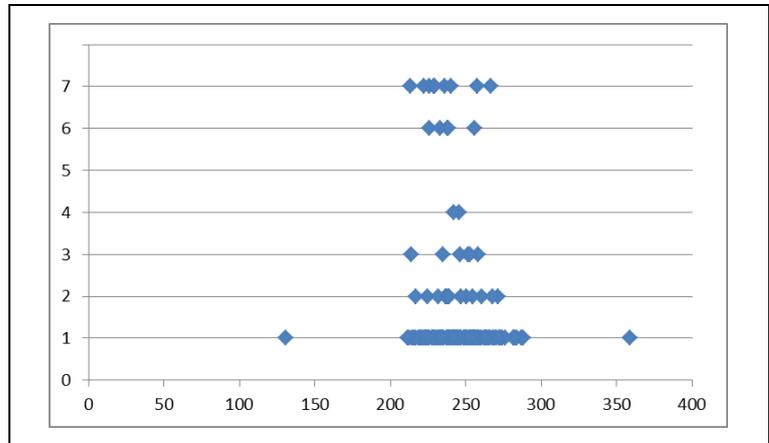
これらの回答状況の差に着目すると、同様の環境の中であっても、土曜日を利用した補充的な学習のサポート、学習支援ボランティア等を活用した地域との関わり、言語活動に重点をおいた指導方法や学力調査の結果分析を生かした教育指導改善に関わる教員研修等に取り組んだ小学校ほど、平均正答率も高い傾向が見られます。

中学校

日本語指導が必要な生徒の在籍状況を学校が選んだ選択肢（縦軸）ごとに、その学校の教科に関する調査の平均正答率の合計がどこに位置しているかをプロットしました。

< 選択肢 >

- 1 在籍していない
- 2 1人
- 3 2人
- 4 3人
- 5 4人
- 6 5～7人
- 7 8人以上
- 0 無回答・不明



複数名の日本語指導が必要な生徒がいる学校（選択肢3～7を選択）は22校あり、そのうち、国語A・国語B・数学A・数学Bの合計が全国平均を超えている学校が6校ありました。これらをI群とし、22校の中で平均正答率の合計が低い6校をII群とし、回答状況の差がある項目を抽出しました。

(数字は選択肢)

番号	質問項目	回答状況
(19)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない	
(27)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(補充的な学習サポートを実施した累計) 1 延べ13日以上 2 延べ9日から12日 3 延べ5日から8日 4 1日から延べ4日 5 行っていない	
(38)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない	
(39)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない	
(45)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない	

第3章 学校質問紙の分析

<p>(52)</p>	<p>調査対象学年の生徒にして、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起っている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>							
<p>(69)</p>	<p>調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>							
<p>(84)</p>	<p>調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>							
<p>4 教科区分の平均正答率の合計 (I群、II群それぞれ6校の平均正答率の合計)</p>		<p>I群</p>	<p>266.5</p>	<p>258.4</p>	<p>257.9</p>	<p>256.1</p>	<p>252.8</p>	<p>251.9</p>
		<p>II群</p>	<p>229.0</p>	<p>225.8</p>	<p>225.6</p>	<p>222.2</p>	<p>213.7</p>	<p>213.4</p>

これらの回答状況の差に着目すると、同様の環境の中であっても、教科指導のねらいを明確にした上での言語活動を取り入れた授業づくり、長期休業日を利用した補助的な学習サポート、資料の調べ方が身に付く指導等に取り組んだ中学校ほど、平均正答率も高い傾向が見られます。

教員研修、地域との関わりを充実させた学校づくりが大切です。

小中学校ともに、就学援助を受けている児童生徒の在籍割合と平均正答率の合計との間には、明確な関連は見られませんでした。

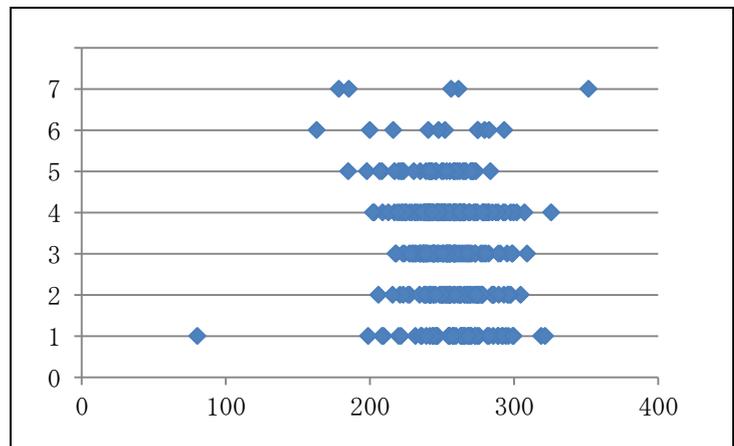
しかしながら、そうした中で、就学援助を受けている児童生徒の在籍割合が同じような状況の学校の中にも平均正答率が高い学校とそうでない学校があります。それらの学校の指導の違いを学校質問紙から検証します。

小学校

就学援助を受けている児童の在籍状況と、教科の平均正答率との関連を見るために、県内の各小学校が選んだ選択肢（縦軸）ごとに、その学校の教科に関する調査の平均正答率の合計がどこに位置しているかをプロットしました。

＜選択肢＞

- 1 在籍していない
- 2 5%未満
- 3 5%以上、10%未満
- 4 10%以上、20%未満
- 5 20%以上、30%未満
- 6 30%以上、50%未満
- 7 50%以上
- 0 無回答・不明



児童の20%以上が就学援助を受けている学校（選択肢5～7を選択）は54校あり、そのうち、国語A・国語B・算数A・算数Bの合計が全国平均を超えている学校が24校ありました。24校中の上位18校をI群とし、54校の中で平均正答率の合計が低い18校をII群とし、回答状況の差がある項目を抽出しました。

(数字は選択肢)

番号	質問項目	回答状況
(20)	調査対象学年の児童は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか 1 そのとおりだと思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない	
(21)	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか 1 そのとおりだと思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない	

第3章 学校質問紙の分析

<p>(37)</p>	<p>調査対象学年の児童に対する指導に関して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的にどの程度取り入れましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>																																											
<p>(50)</p>	<p>調査対象学年の児童に対して、前年度までに、道徳の時間において、児童自らが考え、話し合う指導をしましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>																																											
<p>(52)</p>	<p>調査対象学年の児童に対して、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>																																											
<p>(84)</p>	<p>調査対象学年の児童に対して、前年度までに地域の人材を外部講師として招聘した授業をどの程度行いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>																																											
<p>(86)</p>	<p>調査対象学年の児童に対して、前年度までに博物館や科学館、図書館を利用した授業をどの程度行いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>																																											
<p>(108)</p>	<p>コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を学ぶ校内研修を行っていますか 1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない</p>																																											
<p>(109)</p>	<p>授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか 1 年間15回以上 2 年間13回から14回 3 年間11回から12回 4 年間9回から10回 5 年間7回から8回 6 年間5回から6回 7 年間3回から4回 8 年間1回から2回 9 全く実施していない</p>																																											
<p>4教科区分の平均正答率の合計 (I群、II群それぞれ18校の平均正答率の合計)</p>		<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="4">I群</td> <td>351.5</td> <td>293.1</td> <td>283.6</td> <td>282.6</td> <td>279.5</td> </tr> <tr> <td>274.7</td> <td>274.7</td> <td>273.5</td> <td>271.7</td> <td>271.7</td> </tr> <tr> <td>271.5</td> <td>270.3</td> <td>270.0</td> <td>266.6</td> <td>265.4</td> </tr> <tr> <td>264.6</td> <td>262.4</td> <td>261.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">II群</td> <td>240.5</td> <td>238.8</td> <td>234.9</td> <td>230.3</td> <td>223.2</td> </tr> <tr> <td>221.7</td> <td>221.6</td> <td>220.0</td> <td>217.0</td> <td>216.1</td> </tr> <tr> <td>208.4</td> <td>206.7</td> <td>199.9</td> <td>197.8</td> <td>185.4</td> </tr> <tr> <td>184.9</td> <td>178.3</td> <td>163.0</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	I群	351.5	293.1	283.6	282.6	279.5	274.7	274.7	273.5	271.7	271.7	271.5	270.3	270.0	266.6	265.4	264.6	262.4	261.5			II群	240.5	238.8	234.9	230.3	223.2	221.7	221.6	220.0	217.0	216.1	208.4	206.7	199.9	197.8	185.4	184.9	178.3	163.0		
I群	351.5	293.1		283.6	282.6	279.5																																						
	274.7	274.7		273.5	271.7	271.7																																						
	271.5	270.3		270.0	266.6	265.4																																						
	264.6	262.4	261.5																																									
II群	240.5	238.8	234.9	230.3	223.2																																							
	221.7	221.6	220.0	217.0	216.1																																							
	208.4	206.7	199.9	197.8	185.4																																							
	184.9	178.3	163.0																																									

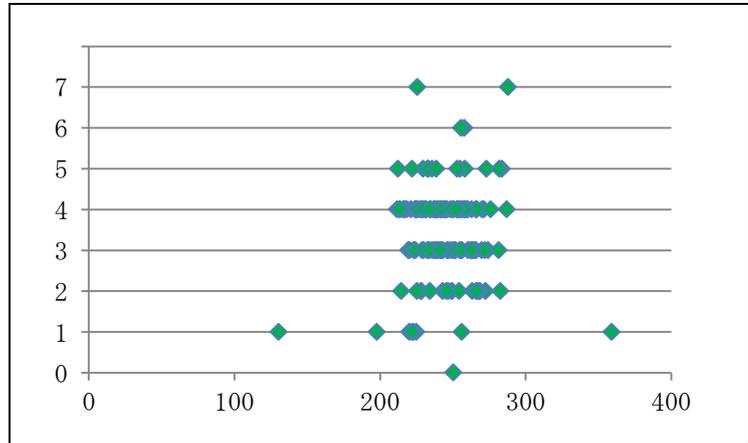
これらの回答状況の差に着目すると、同様の環境の中であっても、児童自らが考え話し合ったり発言や発表を工夫したりする言語活動、地域との関わりの中で地域の人材を外部講師として招へいする取組、図書館を利用した授業、コンピュータ等の情報通信技術の活用、授業研究を伴う教員研修等に取り組んだ学校ほど、平均正答率も高い傾向が見られます。

中学校

就学援助を受けている生徒の在籍状況と、教科の平均正答率との関連を見るために、県内の各中学校が選んだ選択肢（縦軸）ごとに、その学校の教科に関する調査の平均正答率の合計がどこに位置しているかをプロットしました。

< 選択肢 >

- 1 在籍していない
- 2 5%未満
- 3 5%以上、10%未満
- 4 10%以上、20%未満
- 5 20%以上、30%未満
- 6 30%以上、50%未満
- 7 50%以上
- 0 無回答・不明



生徒の20%以上が就学援助を受けている学校（選択肢5～7を選択）は18校あり、そのうち、国語A・国語B・数学A・数学Bの合計が全国平均を超えている学校が10校ありました。10校中の上位8校をI群とし、18校の中で平均正答率の合計が低い8校をII群とし、回答状況の差がある項目を抽出しました。

(数字は選択肢)

番号	質問	回答状況
(18)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか 1 そのとおりだと思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない	
(40)	調査対象学年の生徒に対する指導に関して、前年度までに、生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めることをどの程度行いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない	
(43)	調査対象学年の生徒に対する指導に関して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をどの程度行いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない	
(52)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない	

第3章 学校質問紙の分析

(82)	<p>平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか</p> <p>1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない</p>					
(88)	<p>学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか</p> <p>1 よく参加してくれる 2 参加してくれる 3 あまり参加してくれない 4 全く参加してくれない</p>					
(89)	<p>保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか</p> <p>1 そのとおりだと思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない</p>					
(101)	<p>都道府県や市町村の指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校していますか</p> <p>1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない</p>					
(114)	<p>あなた（校長）は、校内の授業をどの程度見て回っていますか</p> <p>1 ほぼ毎日 2 週に2～3日程度 3 月に数日程度 4 ほとんど行っていない</p>					
<p>4教科区分の平均正答率の合計 (I群、II群それぞれ8校の平均正答率の合計)</p>		I群	288.0	287.0	283.7	281.9
		II群	273.1	258.4	257.9	255.7
		I群	238.7	235.7	233.4	232.8
		II群	229.7	225.6	222.2	212.4

これらの回答状況の差に着目すると、同様の環境の中であっても、人の考えを最後まで聞いたり生徒の発言の時間を確保したりするなどの言語活動、近隣等の小学校との全国学調分析結果の共有、地域との関わりの中で保護者や地域の人々の様々な支援や活動への参加、校長の授業の見回り等に取り組んだ学校ほど、平均正答率も高い傾向が見られます。

日頃から「今、求められている力」を意識し、キャリア教育の視点からも、子どもたちの発達段階に応じた授業改善等の取組を進めることが大切です。また、子どもたちが日々の学習と実生活や自分の将来との関係に意義を見だし、見通しと意欲を持って学ぶことができるよう、教育活動全般で取り組むことが大切です。

「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」における取組の視点として、「主体的・協働的に学び行動する意欲」において、「キャリア教育の視点からも、日々の学習と実生活や自分の将来との関係に意義を見だし、見通しと意欲を持つ学び」としているところです。

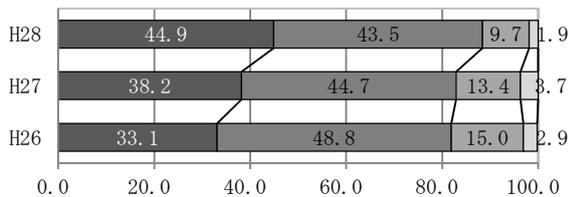
この観点から、関連する児童生徒・学校質問紙調査の回答状況と平均正答率との関連を示します。

◆◆地域の人材を招へいた授業の実施◆◆

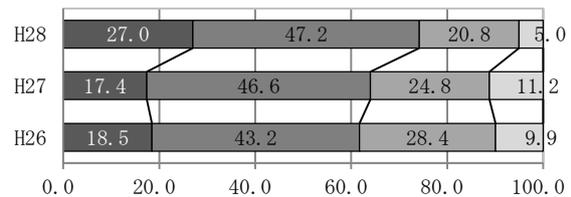
(84) (83) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか

■よく行った ■どちらかといえば、行った ■どちらかといえば、行っていない ■全く行っていない

【小学校】



【中学校】



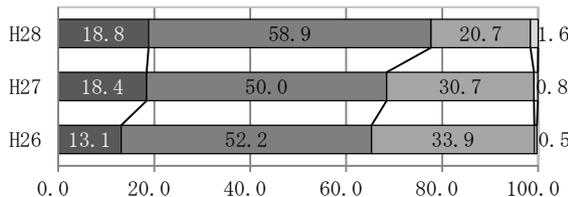
※小中学校ともに、地域人材を活用した授業の取組が進んでいます。

◆◆将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導と児童生徒の意識◆◆

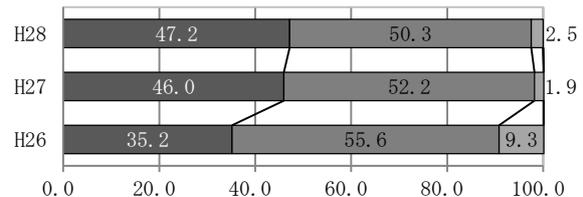
【学校質問紙】(48) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

■よく行った ■どちらかといえば、行った ■どちらかといえば、行っていない ■全く行っていない

【小学校】



【中学校】

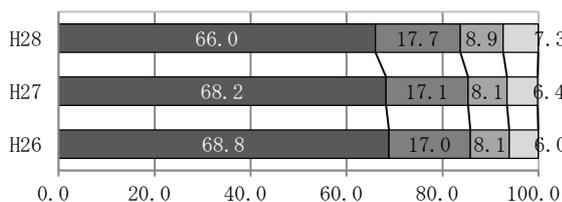


※小中学校ともに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導が進んでいます。

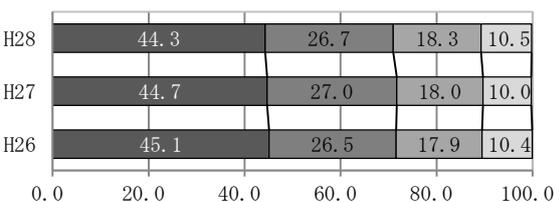
【児童生徒質問紙】(9) 将来の夢や目標を持っていますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

【小学校】



【中学校】

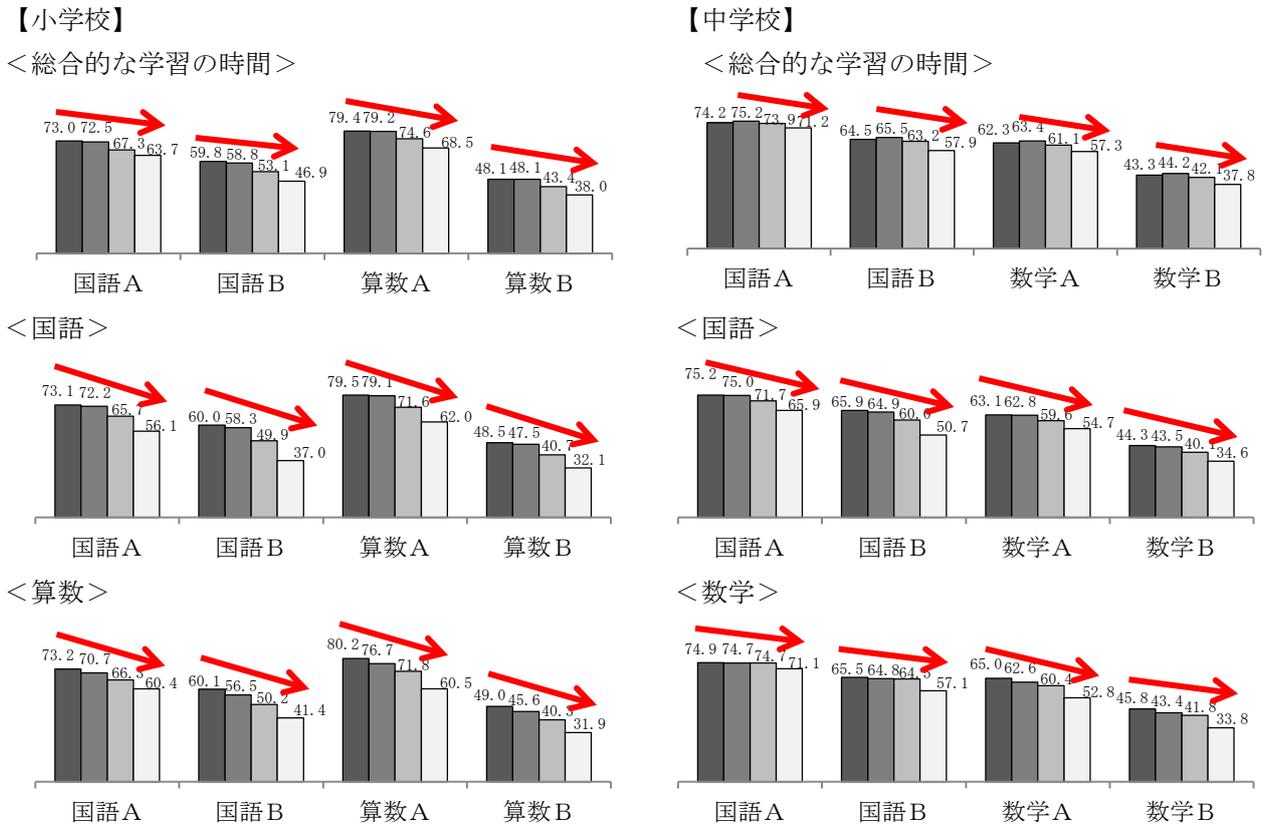


※児童(小)では、将来の夢や目標を持っていると回答した割合が若干減少し、生徒(中)においても、大きな増加は見られません。

※学校の意識と児童生徒の意識との乖離が見られます。

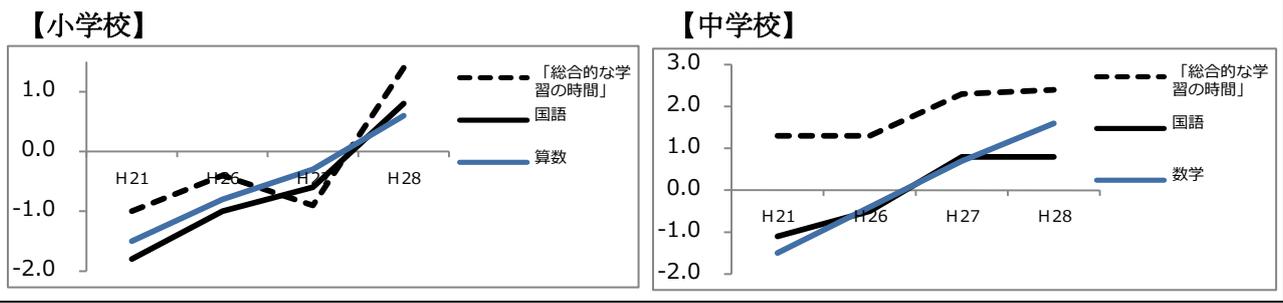
◆◆学習したことが役に立つ◆◆

(45)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
 (65)(77)国語、算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



※国語、算数・数学、小学校の総合的な学習の時間において、授業で学習したことが将来社会に出たときに役に立つと回答した児童生徒の方が平均正答率が高い傾向にあります。

「授業で学習したことは、普段の生活や将来、社会に出たときに役に立つ」と肯定的な回答をした児童生徒と全国平均との差の経年変化を示します。



分析結果

小中学校ともに、地域等の人材を招へいた授業等の実施が進められています。また、児童生徒の「授業で学習したことは普段の生活や社会に出たときに役に立つ」との意識も高まっており、全国平均を上回っています。学校の指導が、児童生徒の学習の重要性に対する意識向上につながっています。

また、『再分析から見えるキャリア教育の可能性ー将来のリスク対応や学習意欲、インターンシップ等を例として』（国立教育政策研究所 平成 28 年）では、「現在の小学校キャリア教育では、『人間関係形成・社会形成能力』『自己理解・自己管理能力』を育成しようとする授業・指導に比べて、『課題対応能力』『キャリアプランニング能力』の育成に向けた取組はやや不十分であると言える」とされています。

日頃から、子どもたちが学校での学習と自分の将来との関係に意義を見だし、学ぶ意欲を高めるとともに、将来就きたい職業について考え夢や目標を持てるよう、キャリア教育の視点で各教科の授業改善等をはじめとして、教育活動全般を通じて取り組んでいくことが大切です。